

マナーのツボ

女性の上司が上座を嫌がる



会議や宴席において、ビジネス上の序列はそのまま席次となります。相手を敬い、配慮した結果ではあるのですが、必ずしも快適を保證せず、負担になることさえあります。

例えば昇進した自分が、年上の部下を差し置いて上座に座るのは居心地の悪いもの。だからといって遠慮しすぎて下座に座ると、部下は困惑し場は混乱します。部下にとってもこのような気遣いは迷惑です。では女性の上司が上座に座るのを遠慮した場合、どうすればいいのでしょうか。

序列に従うのがビジネスマナーの基本ですが、例外もあります。以前、老舗料亭の女将が、お座敷で上座に座る女性が増えたと話していました。日本の伝統や

無理にすすめず「場の和み」意識

慣習、感性とマナーは一致しないことがあります。「三辞三讓」よろしく、遠慮する謙虚な姿勢を見せることが美德とされるところがあるからです。時代は変わるとはいえ、マイナスにとらえられるのはもったいなく感じます。

ただ、要職に就きながらも上座を拒む女性が多いのは事実です。その場合、無理にすすめたりせず「僭越（せんえつ）ながら本日は私が座らせていただきましようか」と申し出る男性がいれば場も和みます。

席次を考える際、調度品や景観、温度、年齢や体調、相手の意向など「例外」は常に存在し、無視してはいけないポイントです。お互いの心地良い場所をコミュニケーションを通して決めていく交流、そこそが上座と下座の本来あるべき姿なのだと思えます。

(ビジネスマナー講師

美月 あきこ)